令和６年度第２回小学校教科担任制推進協議会　実践交流資料

１　学校名・教科型

東広島市立川上小学校　　４教科型

２　学校の概要

学級数及び児童数（R6.12.1現在）

	通常学級							特支学級	合計
	１年	２年	３年	４年	５年	６年	計		
児童数	128	127	129	122	136	140	782	38	820
学級数	4	4	4	4	4	4	24	6	30

３　教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
６年　１組（担任：A）	B	B	A	A	推進	専科	専科	A	A	A	A	A	A
６年　２組（担任：B）	B	B	B	A	推進	専科	専科	B	B	B	B	B	B
６年　３組（担任：C）	D	D	C	C	推進	専科	専科	C	C	C	C	C	C
６年　４組（担任：D）	D	D	D	C	推進	専科	専科	D	D	D	D	D	D

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
５年　１組（担任：E）	E	専科	E	E	推進	専科	専科	E	E	E	E	E	E
５年　２組（担任：F）	F	専科	F	F	推進	専科	F	F	F	F	F	F	F
５年　３組（担任：G）	G	専科	G	G	推進	専科	G	G	G	G	G	G	G
５年　４組（担任：H）	H	専科	H	H	推進	専科	H	H	H	H	H	H	H

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	6	1	2.6	5	3	1.7	1.7	3	1	2	1	1
４年１組（担任：I）	I	I	I	I	推進	専科	I	I	I	I	I	I

4　成果と課題

（①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他）

＜効果のあった取組＞

①　【授業の質の向上】

同一学年・同一教科の指導によるブラッシュアップ型の授業改善

②　【多面的な児童理解】

複数の教員が関わることによる児童への多面的な指導や支援の実施

③　【小・中学校の円滑な接続】

中学校進学に向け、教科担任による学習や生活への順応

④　【教師の負担軽減】

指導教科数の軽減により、学級担任の空き時間の確保と教材研究の充実

＜成果＞

①　【 授業の質の向上 】

・推進教員が同一学年の同一教科を指導することで授業における児童の反応や理解度を分析し、発問や板書を改善して指導に当たることができた。

・毎時間ノートの評価を行うことで、理解が十分でない児童を把握し、個別指導を行うことで、単元末テストの知識・技能の項目において 80 点以上の児童が８割になる等、基礎学力の向上を図ることができた（図１・図２）。

図１　ノートの評価

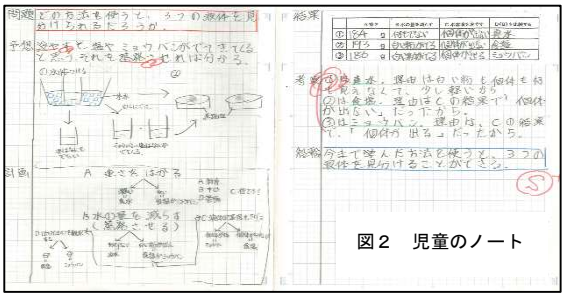

図２　児童のノート

②　【 多面的な児童理解 】

・推進教員も学年部の一員として、生徒指導上の共通理解を図り、組織的な取組の充実を図った。

・教師間の連携を深め、児童に関する生徒指導上の情報を学年部内で共有し、複数の教員が関わることにより、児童への多面的な指導や支援を行うことができた。

③　【 小・中学校の円滑な接続 】

教科担任による様々な指導方法や板書の仕方などを児童に経験させることで、中学校から始まる教科担任による学習や生活に対する不安をなくし、効果的な接続につながった。

④　【 教師の負担軽減 】

・学級担任が担当する指導教科数が減少することで、空き時間が確保され、教材研究を充実させることができた。

・担当教科において、児童に身に付けさせたい力を明確にし、教科の見方・考え方を働かせることができるような発問や板書を工夫した指導を行うことができた。

＜課題＞

①　【 授業の質の向上 】

教材研究の際に、校内で実践事例を共有したり、単元の流れを相談したりすることができたが、毎時間の授業内容について交流するための時間の確保は難しく、推進教員以外の視点を踏まえた授業改善となりにくかった。

②　【 多面的な児童理解 】

・児童の課題についての情報共有することはできたが、指導の方針について話し合う時間を十分に確保することができなかった。
・SSR や自宅でリモート授業を行っている児童への配慮が十分でないこともあった。

③　【 小・中学校の円滑な接続 】

小学校第３～６学年までの系統性を把握し、関連付けながら指導を行うことができたが、中学校の内容で生徒が難しさを感じている領域の把握が十分にできておらず、それを踏まえた指導には至らなかった。

④　【 教師の負担軽減 】

教科間を関連付けたカリキュラムマネジメントの視点をもちにくかった。

⑤　【 その他 】

祝日や学校行事、出張等で時間割の調整が必要な場合、調整するのが難しかった。

▼

＜対策＞

①　【 授業の質の向上 】　③　【 小・中学校の円滑な接続 】　④　【 教師の負担軽減 】

・多様な働き方や勤務形態を踏まえ、計画的に時間を確保し、教材研究や教材開発を行う。
・系統を意識した指導の工夫を行うために、同じ教科を担当する教員や中学校の教員との連携を図る場を設定し、交流を行う。

②　【 多面的な児童理解 】

・ICT を効果的に活用できるスキルアップを図るために、校内研修を行い、自己の研鑽の機会を設ける。
・支援が必要な児童に対する配慮事項や背景について教職員間で共通理解が図れる環境を整備する。

⑤　【 その他 】

月曜日に祝日や振替休日が多いため、月曜日に教科担任の授業をなるべく設定しないようにする。